

「大東亜戦争」—戦争指導—

(1) 戦争の目的

- 1941 年 11 月 15 日「対米英蘭蔣戦争終末促進ニ関スル腹案」(杉之尾、141 頁)
1941 年 12 月 8 日 開戦日

- 真珠湾攻撃直後の 1941 年 12 月 12 日に戦争の呼称を「支那事变」も含めた、「大東亜戦争」に改め、戦争目的を「大東亜共栄圏」の建設と設定された。

(有馬、281 頁)

大東亜戦争の戦争目的は自存自衛+東亜新秩序 (表裏の関係?)

→天皇や海軍; 自存自衛⇔政府や陸軍: 新秩序建設 思想が統一されず。

※開戦後の戦局が有利な時には新秩序建設が重く見られがち。 (森松、223 頁)

- 「自存自衛」と「アジアの解放」
 - ◆ 陸軍の分裂: 「自存自衛」⇔「アジアの解放」(「大東亜新秩序建設」)
 - ◆ 「陸海軍の開戦準備命令」(1941 年 11 月 5 日の会議を受けて)
陸軍: 「自存自衛を完うし大東亜の新秩序を建設する為」
海軍: 「自存自衛のため」

(戸部、34; 防衛研、17)

- 「自存自衛」の意味変容
 - ◆ 開戦時; 南方の戦略資源 (石油資源の確保)
 - ◆ 終末時; 国土の防衛と体制の維持 (戸部、38)

(2) 「大東亜共栄圏」

- 「大東亜共同宣言」と「大東亜共栄圏」
 - ◆ 「大東亜共同宣言」(1943 年 11 月) を発表。
『『主導国』日本を前提として、日本に『主導』されるアジア諸国と日本によって作られる『大東亜共栄圏』を不定して、アジア諸国との間で『自主独立』『平等互惠』の原則を確立することが、日本の戦争目的として、新たに掲げられた。』(井上、228)
 - ◆ アメリカを意識した宣言(「大西洋憲章」を念頭に)
「たとえ戦争に軍事的に敗れても、戦争目的は達成できる。このような敗戦の合理化のために、『大東亜共同宣言』を起草した」(井上、228-9)

(3)「絶対国防圏」

※「絶対国防圏」…マリアナ諸島、カロリン諸島、西部ニューギニア→長期の不敗大勢
(1943.9、「今後採ルヘキ戦争指導ノ大綱」 (杉之尾、153-154 頁))

※東条英機 国務と統帥の一致・強化(参謀総長、杉山元→東条)既に陸軍大臣も兼任。
(1944.2.21) (杉之尾、155-156 頁)

● アッツ島(アリューシャン列島)の「玉砕」(辻田、149 頁)

1942 年 6 月、ミッドウェー攻略作戦の陽動として米領のアッツ島を占領
→守備隊 2600 名配置(戦略的価値は?)

1943 年 5 月、米軍 1 万 1000 の陸軍部隊の上陸。→守備隊の「全滅」
(米軍の戦死者は 600 名ほど)

▶ トラック空襲(1944)(辻田、168-169 頁)

→トラック環礁は「絶対国防圏」の一角

→海軍報道部は大本営発表の原案「甚大」⇒最終的に「若干」

参考文献

1. 井上寿一『増補 アジア主義を問いなおす』筑摩書房(ちくま学芸文庫)、2016 年
2. 戸部良一『自壊の病理—日本陸軍の組織分析』日本経済新聞出版社、2017 年
3. 防衛庁防衛研修所戦史室『戦史叢書 大本営陸軍部〈3〉』朝雲新聞社、1970 年
4. 杉之尾宜生『大東亜戦争 敗北の本質』ちくま新書、2015 年
5. 有馬学『帝国の昭和』(日本の歴史 23)講談社学術文庫、2010 年
6. 森松俊夫『大本営』教育社歴史新書、1980 年;1986 年新装第二刷